学術俯瞰講義:「死すべきものとしての人間」(2)

生と死の思想
――その多様性と相互理解――

2009年4月27日

人文社会系研究科・教授(宗教学)
島薗　進

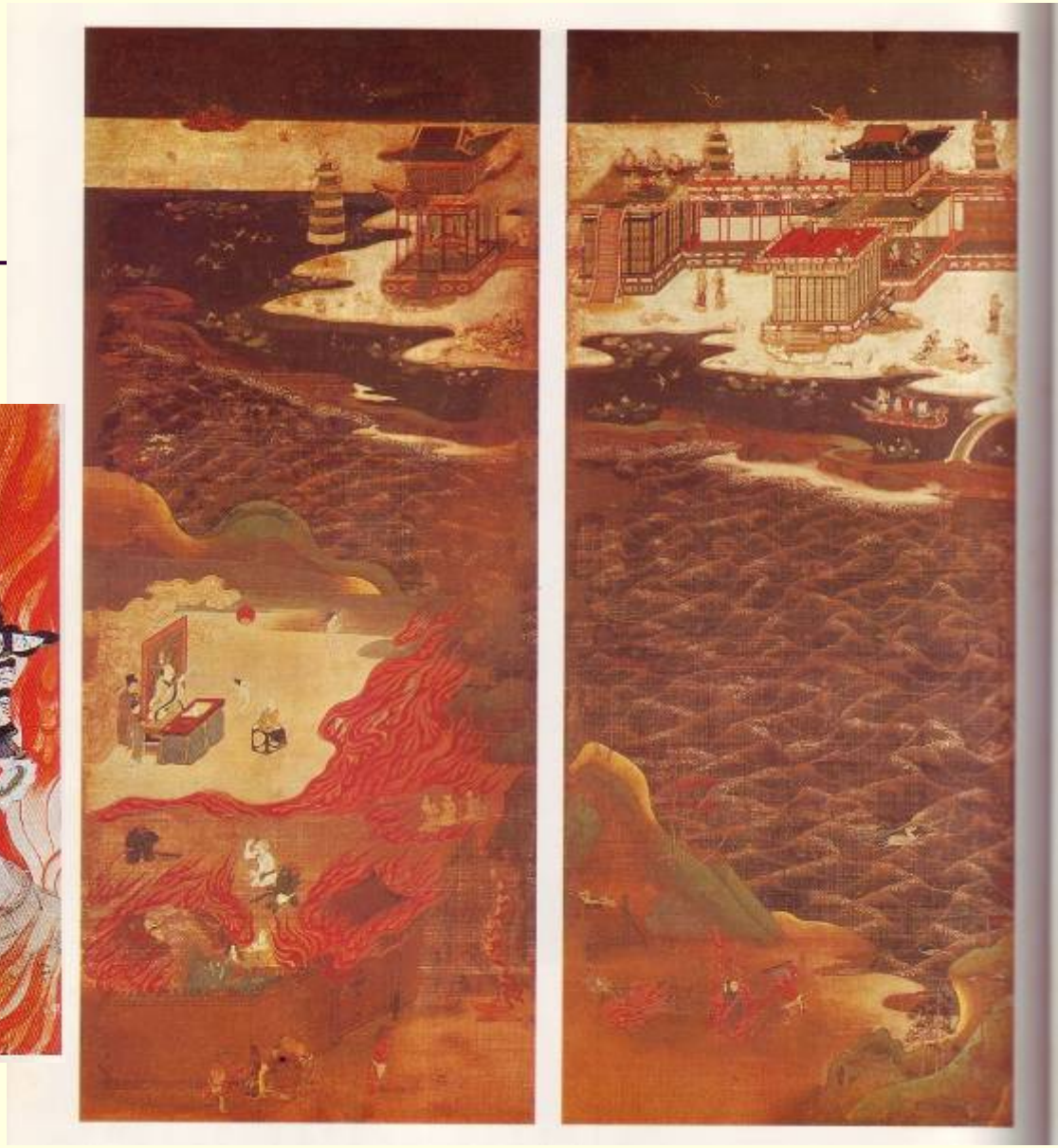
ǂ:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

Ⅰ.「死を想え（メメント・モリ）」から この世中心の世界観へ

- 来世から現世（魂から身体）への価値重点の移行

「世間出世至極たゞ死の一事也。死なば死ねとだに存ずれば、一切に大事はなきなり。この身を愛し、命を惜しむより、一切のさはりおこることなり。あやまりて死なむは、よろこびなりとだに存ずれば、なに事もやすくおぼゆる也。しからば、我も人も、真実に後世をたすからむとおもはんには、かへすがへすも、道理をつよくたてゝ、心にまけず、生死界の事を、ものがましくおもふべからざるなり。」

『一言芳談』（1291-1350頃 ）



『矢田地蔵縁起』(14世紀)　　地獄極楽図(金戒光明寺、14世紀)

アルビの聖堂（フランス）の壁画：最後の審判（15世紀末）

図1　不信仰に対する誘惑，E. S の画家，「往生術」銅版挿絵，1450年頃，オクスフォード，アシュモリアン美術館（以下図11まで、同「往生術」銅板挿絵）

『往生術』（15世紀）

死に瀕する者に科せられる
5つの誘惑とそれに抵抗する術

1. 不信仰
2. 絶望
3. 短気
4. 虚栄
5. 貪欲

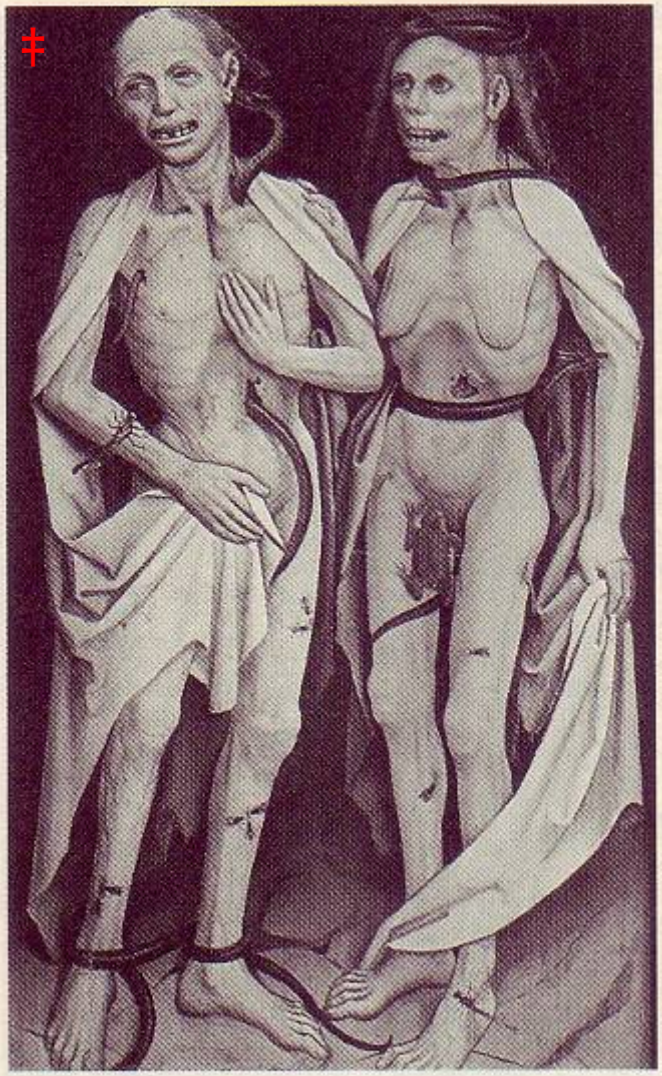
小池寿子『マカーブル逍遙』
（青弓社、1995年）

図25　死と生、サヴォナローラ著「善死の術についての説教」木版挿絵、1497年頃、パリ、国立図書館、Rés. D. 9796, fol. Evi r.

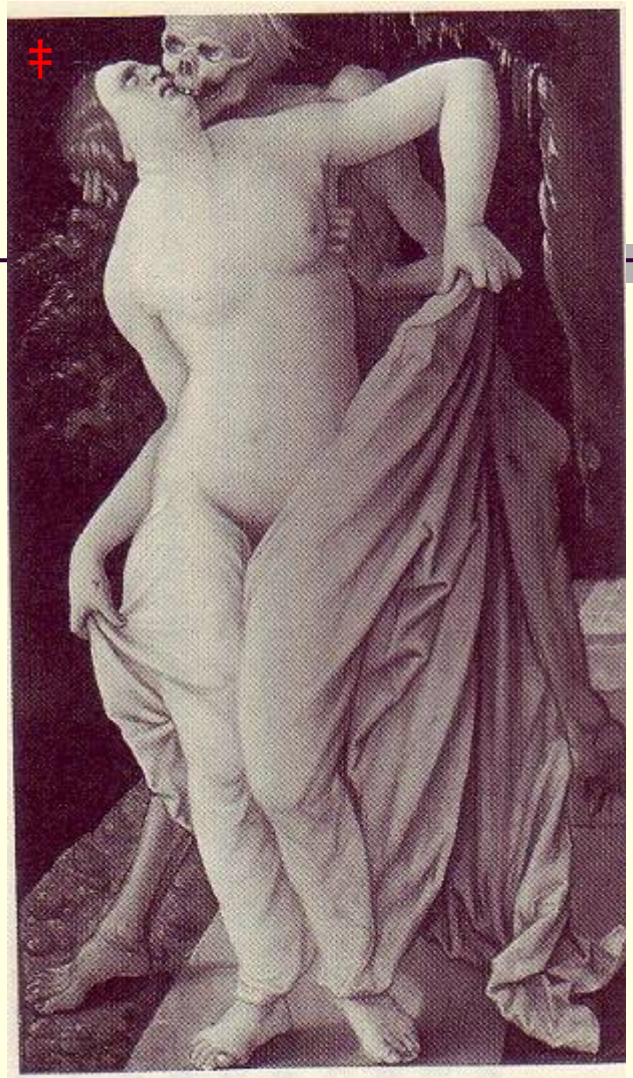
サヴォナローラ（1452-98）

「信者は、つねに死の眼鏡をつけ、すぐに死ねるよう準備しておかねばならぬ（中略）親しい者の死に直面するのはよい経験となる。もし弱い者であるなら、自分の家に死をもっていなければならない。手に小さな骸骨を持ち、しばし眺めるがよい。また、何の道具もなければ、自分の肉体を見つめなさい。その手も身体もやがては砂塵に帰し、すぐに悪臭を放ってくるのだから。」

小池寿子『マカーブル逍遙』（青弓社、1995年）



男女の腐敗図，板，
テンペラ，1460-70年頃，ストラスブール市立美術館



ハンス・バルドゥンク・グリーン，乙女と死，
板，油彩，1518-20年頃，バーゼル美術館

小池寿子『マカーブル逍遙』青弓社、1995年

Ⅱ．無常と浮き世

◇日本仏教と無常観

「ゆく河のながれはたえずして、しかもゝとの水にあらず。よどみにうかぶうたかたはかつきえかつむすびて、ひさしくとゞまる事なし。世中にある人と栖と又かくのごとし。（中略）朝に死に、夕に生まるゝならひ、たゞ水の泡にぞ似たりける。不知、うまれ死ぬる人いずかたよりきたり、いづかたへか去る。又不知、かりのやどり、たが為にか心をなやまし、なにゝよりてか目をよろこばしむる。そのあるじとすみかと無常をあらそふさま、いはゞあさがほの露にことならず。」（鴨長明『方丈記』1212年）

◇橋本峰雄『「うき世」の思想』講談社現代新書、1975）

◎「うき世」はこの世と距離を取りながらも、この世にどっぷりつかっている人間のあり方への反省を含意。

☆『伊勢物語』（平安中期）

世の中にたえて桜のなかりせば
　春の心はのどけからまし（在原業平）

散ればこそいとゞ桜はめでたけれ
　うき世になにか久しかるべき（又人）

☆『古今和歌集』（905）

ほととぎす我とはなしに卯の花の
　うき世の中になき渡るらむ
（凡河内躬恒）

著作権処理の都合で、

この場所に挿入されていた

『「うき世」の思想』
（著：橋本峰雄　講談社現代新書　1975）

の表紙の画像を

省略させていただきます。

☆西行(1118-90)

＊世のうさにひとかたならずうかれ
　ゆく　心さだめよ秋の夜の月

＊捨つとならばうき世を厭ふしるし
　あらむ　われには曇れ秋の夜の月

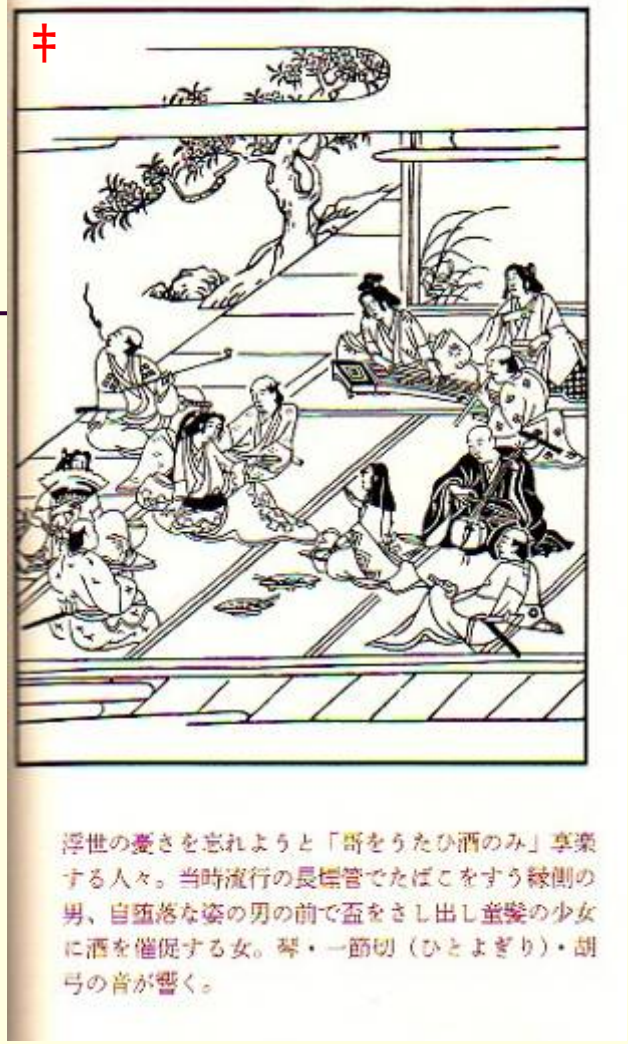
＊ねがわくは花の下にて春死なむ
　そのきさらぎのもち月のころ

＊年たけて又こゆべしと思ひきや
　命なりけり小夜の中山

＊世の中を夢と見る／＼はかなくも
　猶おどろかぬ我が心かな

☆浅井了意『浮世物語』1665年（1612-91）

- 「世に住めば、なにはにつけて善悪を見聞く事、皆面白く、一寸先は闇なり。なんの糸瓜(へちま)の皮、思ひ置きは腹の病、当座〳〵にやらして、月・雪・花・紅葉にうち向ひ、歌を歌ひ、酒飲み、浮に浮いて慰み、手前の擦切[無一物]も苦にならず。沈み入らぬ心立の水に流るゝ瓢箪の如くなる、これを浮世と名づくるなり」



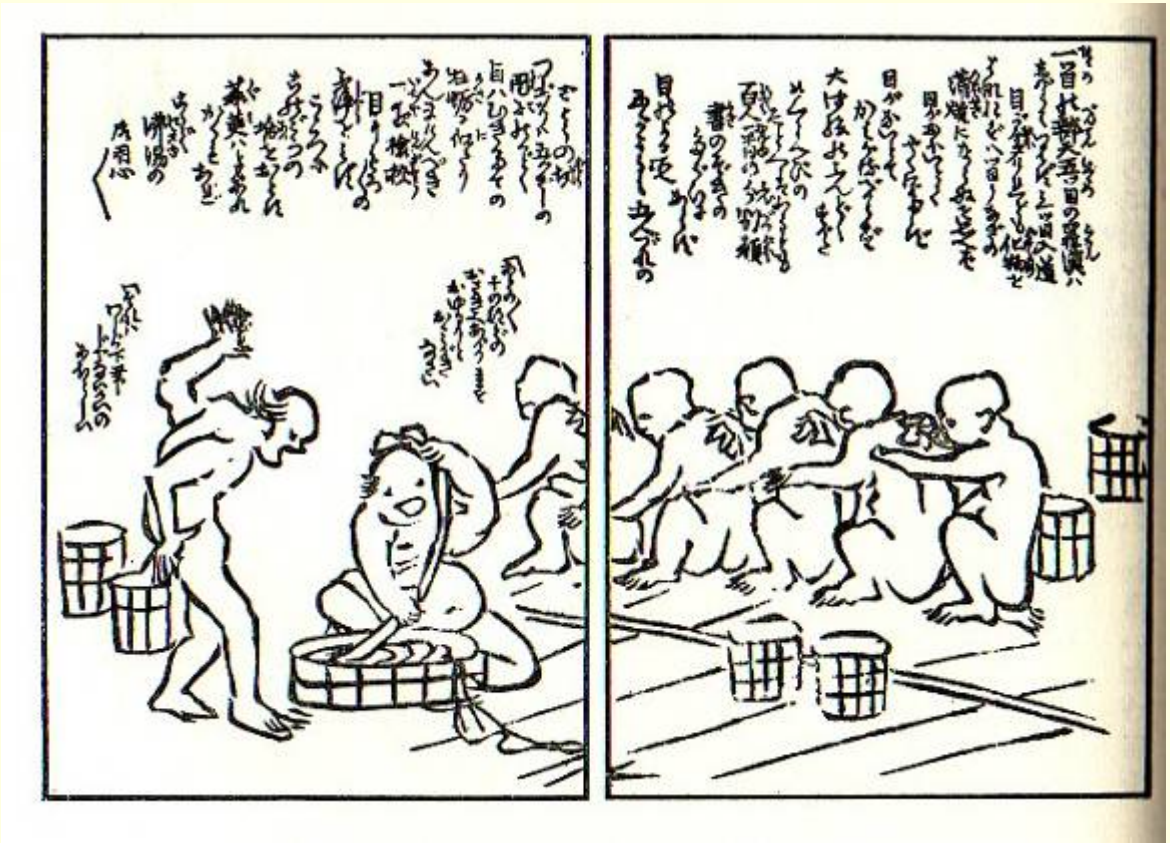
浮世の憂さを忘れようと「哥をうたひ酒のみ」享楽する人々。当時流行の長煙管でたばこをすう緑側の男、自堕落な姿の男の前で盃をさし出し垂髪の少女に酒を催促する女。琴・一節切（ひとよぎり）・胡弓の音が響く。

谷脇理史, 岡雅彦, 井上和人校注・訳『新編日本古典文学全集；64』小学館 1999年 p88より引用

◇『浮世風呂』(式亭三馬1766-1822)「浮世風呂大意」

「熟／＼監るに、銭湯ほど捷径の教諭なるはなし。其故如何となれば、賢愚邪正貧福貴賤、湯を浴んとて裸形(はだか)になるは、天地自然の道理、釈迦も孔子も於三も権助も、産れたまゝの容(すがた)にて、惜い欲いも西の海、さらり

と無欲の形なり。」



「欲垢(よくあか)と梵悩と洗清めて浄湯(をかゆ)を浴れば、旦那さまも折助も、孰(どれ)が孰やら一般裸体(おなじはだかみ)。是乃ち生れた時の産湯から死だ時の葬灌(ゆかん)にて、暮(ゆふべ)に紅顔の酔客(なまよひ)も朝湯に醒的(しらふ)となるが如く、生死一重が嗚呼まゝならぬ哉。」

Ⅲ. 生と死の思想――日本と西洋

◇二元論／一元論

◎霊魂／からだ（肉体・身体）

◎超越神／被造物、来世／現世

◇儒教的な一元論

「季路、鬼神に事えんことを問う。子の曰わく、未だ人に事うること能わず、焉んぞ能く鬼に事えん。曰わく、敢えて死を問う。曰わく、未だ生を知らず、焉んぞ死を知らん。」（『論語』先進第十一）

◇個が基礎／関係が基礎

◇「死生観」という語の由来

- 加藤咄堂(1870-1949)

『死生観』井洌堂、1904

第1章　死生観の変遷
第2章　武士道と死生観
第3章　古聖の死生観
第4章　近世の死生観
第5章　死生問題の解決

『大死生観』積文社、柳原書店、1908

◇加藤が好んだ死生観

- 三界を了達するに心によつてあり、十二因縁復た然り、生死皆な心に由りて作す所、心若し滅すれば生死盡く（華厳経）

といひ、宇宙の実相を真如と生滅の二門に分ち、前者を以て不生不滅の本体とし其本体の上に生滅の波瀾を起すものを宇宙の現象とし、波を離れて水なく、水を離れて波なきが如く、生滅を以て本体海上の波なりとし、優に近世哲学の精華たる現象即実在論に入る（p.91）

岸本英夫(1903-64)「生死観四態」1948年

- 「限りなき生命、滅びざる生命の把握の仕方」の4つの類型。
  1. 肉体的生命の存続を希望するもの
  2. 死後における生命の永存を信ずるもの
  3. 自己の生命を、それに代る限りなき生命に托するもの
  4. 現実の生活の中に永遠の生命を感得するもの

岸本英夫『死を見つめる心――ガンとたたかった十年間』講談社、1964年（文庫版、1973年）

国民的英雄と殉死

乃木神社由緒記より引用

紀平正美外

日本精神と生死觀

有精堂刊行

昭和十八年十月十五日印刷
昭和十八年十月廿五日發行
五〇〇〇部

日本精神と生死觀
定價貳圓五拾錢 特別行爲稅相當額 拾五錢
實價合計金貳圓六十五錢

編者 西田長男
東京都神田區神保町一ノ三九
國學院大學教授 國民精神文化研究所囑託

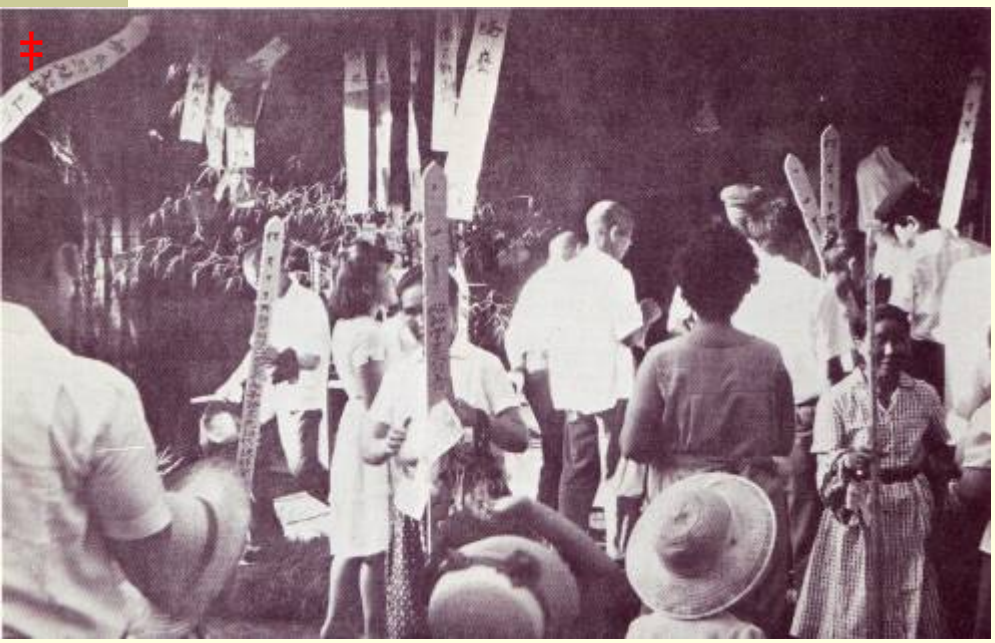
發行者 山崎清一
東京都芝區田村町六ノ十三
大西久八

東京都神田區神保町一ノ三九
有精堂出版部
振替番號東京六七九四九番
會員番號一三七〇〇六番

東京都神田區淡路町二ノ九
日本出版配給株式會社

目次

死滅を考へざりし日本人……國民精神文化研究所々員 文學博士 紀平正美…(一)
生死と國家……國民精神文化研究所々員 佐藤通次…(二九)
現代死生觀私見……九州帝國大學助教授 田中晃…(四二)
我國固有の生死觀……日本精神文化研究所々員 國學院大學・國士舘大學講師 鈴木重雄…(一〇五)
皇道に生きる……大日本報德社副社長 佐々井信太郎…(一二四)
——死生超越の道——
皇軍の死生觀……陸軍報學會々長 陸軍少將 中柴末純…(一五五)
日本人間における生死觀の發展…文學大學教授 文學博士 鈴木大拙…(一七二)
我が國上代の生死觀……大倉精神文化研究所々員 秋山大…(二三三)
——聖德太子應生の天壽國——
日本禪僧の生死觀……大倉精神文化研究所々員 古田紹欽…(二七九)
——自證を通じて見る——
志士の生死觀……國學院大學教授 國民精神文化研究所囑託 西田長男…(三〇一)
——「西山街義道書」を通路として——



乃木神社由緒記より引用

死の愛好と孤独

井上雄彦『バガボンド』既刊29巻(1998～)、累計5千万部

原作：吉川英治『宮本武蔵』(1939年完結)

Tiele Kerkovius氏

によるスライドより

マリア・フリーデン　ホスピス 1990～

著作権処理の都合で、

この場所に挿入されていた

写真を省略させていただきます。